

よか よか 話

—— 第111回 ——
ビュートイヤーサロンアントレ
代表取締役
社長
安東 友子さん
×
代表
天平堂
今林 崇さん

美術品や器に心満たされるひと時を

美をサポートするプロフェッショナルであるトータルビュートイヤーサロン・アントレの代表取締役社長・安東友子さんと、古陶磁をはじめとする美術品を扱う天平堂の今林崇さん。今回は日ごろから美しいものに触れているお二人に美術鑑賞についてお話をうかがいました。



—— 今回は安東さんが博多区下川端町にある「天平堂」を訪ねました。店内に並ぶ美術品を見ながら対談がスタートです。

今林さん 仕事柄、毎年クリスティーズのオークションに行くのですが、安東さんはサザビーズでピカソの絵皿を競り落とされたそうですね。

安東さん サザビーズのオークション会場は街なかにあるのでアクセスがしやすく、誰でも入れます。私は美術品の専門家ではないので自分が好きか嫌いかで見ていたところ、あの絵皿が目にとまり運よく手にすることができた。

きました。高価なものを買えませんが、あの場で本物の作品を見るという経験が楽しいんです。

今林さん 本当にその通りで、美術品を観ることの本質は、心で感じることに。そして、それを周囲の人と共有することだと考えています。私もこの仕事に携わるなかで、品物が行き先を選んでいると感じることが幾度もありました。科学的に説明できない一期一会が多々あるんですね。

安東さん その考え方は素敵ですね。ロンドンのポートベローマーケットではウェッジウッドやラリックばかりを集めた専門店がいくつも出店しています。そういうところで楽しかった旅の記念に、一つずつ欲しいものがあるんですね。

美しいものに触れることは、心を豊かにすることです

今林さん



便利さだけを追い求めるのではなく、本物の美しさに触れていきたい

安東さん

買うのが好きなんです。フランスにあるドーム社の本店にも行きました。こちらは見学のみのですが、過去の作品も多数展示があり、大変見ごたえがありましたよ。

今林さん 各地に足を運ばれているんですね。日本の美術館や博物館では子どもの姿をあまり見かけませんが、外国では子どもたちが授業などでやってきて、その場でスケッチをしている姿をよく見かけますね。

安東さん 欧米の子どもたちは本物の作品に触れる機会が数多くあるんですね。日常的に本物の美術品を見ることができると環境は素敵ですね。

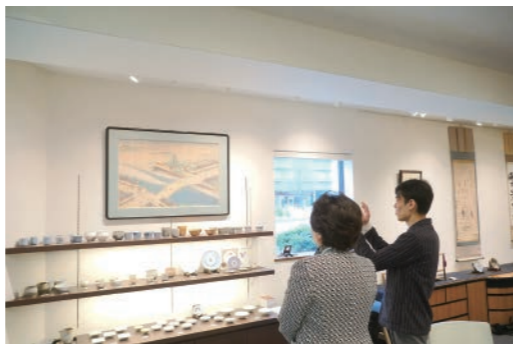
今林さん 同様に欧米では親から子に伝えるという文化が多く残っています。日本だと代替わりの時にコレクションを手放してしまわれることも多いのですが。

安東さん 外国のお宅に招かれると、おじいさんやおばあさんの代からの家具などが多く残っていますよね。また、新しいものの取り入れ方も面白い。ある時、番傘や落し蓋、御神酒、自転車の鍵などをお土産にリクエストされたのですが、それらの飾り方に感心しました。差し上げた数年後にそのお宅にうかがうと、番傘がシャンデリアに使われていたんです。

今林さん 日本でいうところの「見立て」ですね。私も見立ての心が好きです。例えば、欠けた縄文土器を花器に見立てて花を挿す。こうして手を加えて完成させることも古美術の楽しみ方の一つです。

ほど、普遍的で本質的な豊かさを求めるようになるのではないでしょう。か。そのためには、たくさん、本物を知っていききたいものですね。

今林さん まさにその通りです。本当に美しいものを身の回りに置くことは人生の豊かさにつながると思います。そうした楽しみ方を皆さんに伝えていくのも私たちの仕事のひとつ。今後は定期的に美術品に触れていただくイベントも企画していきたいと考えているんです。特に若い方に本物を感じていただきたい。



安東さん それは素晴らしいですね。私もまだまだ学びたいことがたくさん。またじっくりとお話を聞かせてください。

—— よかお話、ありがとうございます。昨年まで天平堂が三十年以上にわたって店舗を構えられていた小倉は、安東さんが学生時代を過ごした思い出の土地とことで小倉トークも弾んでいました。美しいものを知るお二人の一期一会は、世界各地を飛び回り新たな出会いを生み出しそうですね。

■アントレ
所 中央区天神1・4・1
大丸福岡天神店東館4階
☎ 092-781-0736
営 10:00~20:00



■古美術 天平堂
所 博多区下川端町10・12
三善ビル1階
(ホテルオークラ福岡隣)
☎ 092-710-6657
営 10:00~19:00
休 不定休



博多 祇園 鉄なべ

鉄なべ

福岡市博多区祇園町2・20 TEL.092・291・0890
www.tetsunabe.co.jp

ロシア料理
ツンドラ

大名本店 西鉄グランドホテル前
☎ 751-7028
火曜定休

Chocolate Shop
SINCE 1942
博多の
チョコの
はじまりとこ
- SINCE 1942 -
チョコレートショップ
福岡市博多区綱場町3-17 PHONE 092-281-1826



安東さん 鑑賞するのもそうですけれど、実際に使いこなしてこそその良さというものがありませんね。茶道具などは特にそう。使い込むことで色が変わって味が出てきます。唐津や萩などが顕著ではないでしょうか。

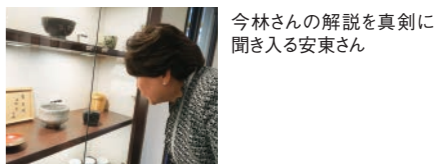
今林さん 古い器は「育てる」といいますが、材質はもちろん、使い方や育ち方が変わります。特に茶道具はその歴史的背景を含めてコレク

ションの対象となつていきます。美術館に飾られている茶道具の多くは伝来した付帯条件の価値なんです。

安東さん 高名な方が作られた作品だ、ということだけで価値が上がるわけではないんですね。それはおもしろいです。近年は技術が進み、バーチャルで視覚を変化させて空間を広く見せたり、そこになんか物があるように見せることができるようになってきています。しかし、バーチャルの世界は、一見しただけでは実物と変わらないかもしれませんが、本質的には違うもの。便利になつていく反面、こうした技術が進歩する



北大路魯山人 筆「古器観」



今林さんの解説を真剣に聞き入る安東さん